

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

前回奈良市法蓮佐保田の野神を取り上げたが（大橋氏は大萩氏の誤りでした）、法蓮町にはさらに2カ所野神が祀られている。一つは在原業平ゆかりの不退寺の門前にある。門の左手前の1本の桟がノーガミサンである。農家が持ち回りで当番となり祀ってきた。毎年5月1日早朝に牛馬の絵馬を吊り下げる供物をささげ、お参りした。終わると一旦帰宅して、その日に納時を行った。昭和10（1935）年ごろまでいう。農家が減り、平成19（2007）年を最後に、行事は中止された。もう一つは法蓮のノー

ガミサン。下長慶橋で佐保川を渡り、北側の堤を西に下ったすぐの所に、「野神」と刻んだ石碑が建つ。もとは佐保川の少し上流、やすらぎの道（市道六条奈良阪線）と佐保川の交差する地点のやや北側にあった。現在佐保橋を渡ると東側に鍼灸院、西側にラーメン店がある。その間の道路敷あたりにノーガミサンの塚があった。昭和39（1964）年に道が新たに造られる時、塚が現在地に移された。もとの塚は、高さ1・2メートル、直径2・5メートルほど



6月1日朝、佐保川堤のノーガミサンに参る人々

—筆者提供

## 牛を連れて塚参り

どの大きさのお椀を伏せたような形で、木も生えていなかつたという。

かつてはノーガミサンを祀る前日の5月31日に当番が朝から塚の草刈り

をし、川砂を上に盛り、中央に御幣を立て竹矢来で囲み、南側に小さな鳥居を立てた。翌6月1日、昔は牛を連れてノーガミサンの塚に参り、塚の周囲を3回まわらせた。牛の角には逆さにしたショウアップを付けた。第二次世界大戦以前は、牛の角にベンガラを塗って飾りとし、塚へ参った後に、押上町の祇園社まで牛を連れて参ったという。牛は2軒の家で持ち合いすることもあった。法蓮に牛がいた頃、家に入るとヌウッと首を出す牛もいた

という。牛を使う前には、言うことによく聞くように、前日はあまり寝させず疲れさせのがいいのだともいった。牛は早くにいなくなつたが、今年も5月31日夜に法蓮の会所の人々が会所に集まつた。会所の床の間に祭壇をしつらえ、元のノーガミサンの塚と牛を描いた軸を掲げて、狹岡神社の宮司により豊穣を祈つて野神祭が行われた。終わると御神酒とチリメンジャコで直会をした。翌日の朝、人々はまた野神の石碑前を集まり、玉串を捧げお参りをした。

（奈良民俗文化研究所代  
表）  
—次回は19日